

長崎大学環境科学部学生が展開してきた 地域における環境活動

荒木 翔太*・松田 香穂里**・中島 汐理*・元永 愛菜*・中村 修***

Environmental Activities in Local Area that Students of Environmental Studies Faculty has Developed, Nagasaki University

Shota ARAKI, Kaori MATSUDA, Shiori NAKASHIMA,
Aina MOTONAGA, Osamu NAKAMURA

Abstract

In this report, we aimed to clarify the activity and the role that Nagasaki University Environmental Studies Faculty developed in local area through group activities for a long time.

From the result of the research, we found that students are deeply involved in environmental activities in local area through their group activities, working coactively with many entities in the area. Through these group activities and entity activities, we found that students are not only learning something that they can not acquire at lecture room, but also playing a role of local contribution of this faculty.

Key Words : Environmental Activities in Local Area, Group Activities

1. はじめに

本稿の目的は、環境科学部の学生が地域において展開してきた活動や果たしてきた役割について明らかにすることである。

そこで、環境科学部の学生が所属する環境サークルに対し、アンケート調査をおこなった。

| |
|---|
| 対象：環境科学部学生を主体とする5つのサークル 実施時期：2010年11月 実施方法：設問への自由回答方式 |
|---|

2. 環境サークルの地域での活動

2.1. つじゃすみん

2.1.1. 発足の経緯

長崎大学に環境科学部が1997年に設立されてからおよそ2年後の1999年1月に誕生した。2003年に全学サ

ークルとなった。

2.1.2. これまでの活動

つじゃすみんの活動の要は、毎週1回行われる部会である。そこで、各メンバーが仕入れてきた環境イベントの情報や自主企画イベントについて宣伝をして、それに共感したメンバーが個人で参加していく。ただし、例外として大きな3つの行事は、つじゃすみん全体で行うものとなっている。

・ナイトハイク

新入生歓迎イベントとして、毎年春に行っている。本イベントは夜から朝にかけて長崎市街地のゴミ拾いを行うイベントである。

・ぼってんリサイクル市

長崎市の事業である「ぼってんリサイクル市」に毎年ブースを出店している。2010年度は託児所を出店し、その中で環境教育として指編みのできるアクリルたわし作り教室を開いた。

・リユース市

本イベントは、つじゃすみんが自主的に企画する最大のイベントである。毎年3月末に、卒業生から回収した家具、家電を新入生に向けて安く販売する。回収

* 長崎大学環境科学部 学生

** 長崎大学大学院生産科学研究科博士前期課程 院生

*** 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

(受理年月日 2011年5月1日)

には基本的に人力のリアカーを使い、掃除には重曹を使用してできるだけ環境への負担を軽減するように努めている(写真1, 2)。

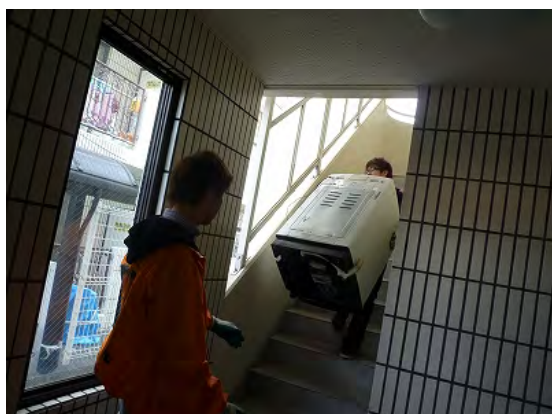


写真1 家財品の回収活動の様子



写真2 卒業生から回収した家財品

2.1.3. 地域における活動

っじゃすみんのメンバーが集めてくる環境イベントはその多くが長崎県内で開催される。そのためっじゃすみんの活動はそのほとんどが地域における環境活動である。2006年度から続いている日本、韓国、中国の学生が集まり、対馬の漂着ゴミを拾って、その現場を見て感じたことから話し合いをするという「日本学生グローバルサミット」への参加、先述の「ぼってんリサイクル市」への参加も地域における環境活動の1つとして挙げられる。

2.2. エコマジック

2.2.1. 発足の経緯

2000年に長崎大学学園祭のごみ廃棄の状況を知った本学部の一部の学生が「Dish Return Project」と「エコまるクラブ」の2つの団体を立ち上げ活動を始めた。

2000年9月に「Dish Return Project」が長崎大学学園祭において皿の貸し出しを行うDRPチームを発足させた。同年11月に「エコまるクラブ」が長崎大学学園祭にて、ごみの14分別展示と分別を、2001年にはリサイクルトレーの導入や割り箸などのリサイクルに取り組んだ。

この2つの団体が、互いの活動をより向上させ、また多くの人に浸透させるためにサークルを合体させるという形で「エコマジック」を立ち上げた。

2.2.2. これまでの活動

エコマジックでは長崎大学学園祭でのごみ廃棄状況の改善を活動の最大目的としている。学園祭でスムーズな運営を行うため、またある程度の知識を必要とされるため、以下の4つの班を設けている。

①DRP班

DRPはDish Return Projectの略である。これは市販されている使い捨てトレーを食品販売時に使用せずにプラスチック製の容器を使用しようというもので、この容器はエコマジックが回収し、洗浄・消毒したのち食品販売時に再度使用する。

②トレー班

DRPシステムのだけでは皿の枚数を補えないために生分解性トレーを店舗に対して販売している。

③ごみ班

長崎大学学園祭期間中に出るごみをすべて管理している。長崎大学文教キャンパス内にエコステーションを設置して分別を行う。

④堆肥班

学園祭で発生するごみのうち、生ごみと生分解性トレーを構内のある堆肥場において堆肥化している。

2.2.3. 地域における活動

浦上川の中流で「川に学ぼうかいin浦上川」という団体と一緒に川の清掃活動を行っている。「川に学ぼうかいin浦上川」は、2005年8月より浦上川地域に生活、仕事や学校などで関わりのある社会人や大学生を中心に、浦上川の中流で活動している環境ボランティア団体である。

エコマジックはこの団体と2ヶ月に1回程度、川に落ちているごみを一緒に拾っている。エコマジック部員数名は「川に学ぼうかいin浦上川」のメンバーに入っており、活動の情報を他の部員に伝えている。

2.3. KUSU

2.3.1. 発足の経緯

KUSUは2005年に立ち上げられたグループである。2005年は被爆60周年でもあり、長崎市とセントポール市姉妹都市提携50周年ということで、今では平和の象

徴とされている被爆くすの種約1000粒を長崎市とセントポール市とで半分ずつ育て、生育状況やそれにかかわる人々のメッセージをネット上で交換し、被爆くすをひとつの仲介とした交流を行うことになった。そこで、セントポール姉妹都市委員会会長でもある宮西隆幸教授からの声かけで、ボランティアとして参加しようと集まったのが、KUSU が活動を始めるきっかけである。

2.3.2. これまでの活動

全国への被爆くすの発送をはじめとし、それに備えての被爆くすの苗作りと世話、各地での植樹・育樹祭への参加を主な活動としている。2007年には長崎市より要請があり、長崎大学生代表として原爆犠牲者追悼平和祈念式典への参列および犠牲者への献花を担ったり、兵庫県の小学校からの依頼により、平和出前授業を行ったりした。その他セントポール市姉妹都市委員会での活動報告や平和フィールドワークなども行った。

2008年からは特に植樹・育樹活動を中心に活動を行っており、2010年からは佐世保100年の森構想委員会



写真3 KUSUの植林活動の様子①



写真4 KUSUの植林活動の様子②

スタッフとして植樹祭に参加している(写真3, 4)。メンバーのうちの3名は、6月に阿蘇で行われた大阿蘇青少年リーダー塾へ参加し、補助指導員の資格を取得した。また、長崎市からの要請で「市民と市長のタウントーク」に参加し、長崎市の環境事業などについて田上富久市長と直接対談したり、市で行われている空き缶回収キャンペーンに参加したりと、地域と深く関わりながら活動している。

2.4. EMS 学生委員会

2.4.1. 発足の経緯

EMS 学生委員会は環境科学部の「環境マネジメント論」の受講者を母体として2007年に設立された。EMS 学生委員会は「環境科学部をより誇れる学部へ」を目標に活動している。EMSは「Environmental Management System=環境マネジメントシステム」の略称である。

当初は内部監査の実施が主な活動であったが、学部のEMSでは外部協力者としての位置づけであった。その後、独自の環境報告書発行、九州・山口EMS学生シンポジウムの開催や、学部のEMS関連業務の補助をすることにより、学部のEMSにおいて果たす役割が大きくなった。現在、学生と協働したEMSを目指し、EMS 学生委員会の代表が学部のEMS 運営組織の一員として活動している。

2.4.2. これまでの活動

EMS 学生委員会では以下のような活動を行っている。

①勉強会

勉強会では新しくEMS 学生委員会に入った学生に対して、環境マネジメントシステムやISO14001などについて概要を教えている。それから、各自EMSに関連したテーマを設定してプレゼンテーションを行うことによって互いに知識を高めている。

②環境科学部の内部監査への参加

環境科学部の内部監査に実際に参加することで、実践的なEMSについての知識を習得している。

③環境報告書の作成

毎年ではないが数年に1回EMS 学生委員会が環境科学部の環境報告書に参加しており、これを新入生に配布していた。2005年、2007年、2011年と作成した。

2.4.3. 長崎大学外との交流

①長崎県庁との内部監査研修会

8月に長崎県庁、長崎大学生協、長崎大学と長崎県内の高校が共同で内部監査の研修会を受けている。EMSについての講義を受けたあとで、実際に内部監査を体験することができる。EMS 学生委員会ではこれが各年度における最初の内部監査体験である。

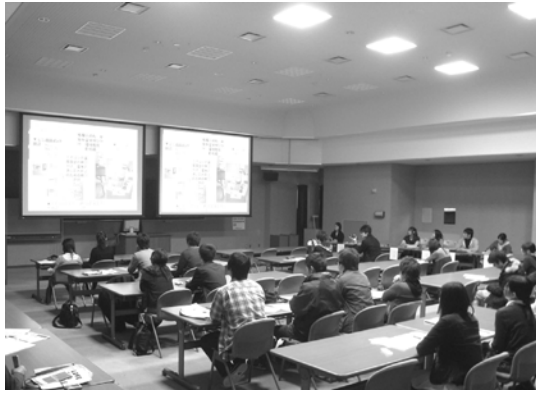


写真5 九州・山口 EMS 学生シンポジウム

②九州・山口 EMS 学生シンポジウムへの参加

2007年度から毎年11月に九州・山口の大学生が集まって、各サークルの活動発表や、環境に関する討論会などをして交流している(写真5)。

2.5. ちゃり再生法研究会

2.5.1. 発足の経緯

2003年に環境科学部学生が、廃棄自転車の数を減らそうとして設立した。当時はサークルとしてではなくNPO団体のもとで「自転車再生委員会」として発足し活動を展開してきた。大学サークルではなかったため、学内での活動が認められなかったものの、年に2回、学内の放置自転車を回収し修理をして、それを希望者に譲渡してきた。また、出張修理や、環境イベントへの参加をしてきた。

2010年7月に大学サークルとして認定され、「ちゃり再生法委員会」として発足した。そのため、学内での活動が可能となり、以前より活動の回数を増やし、学内における放置自転車の削減に努めている。

2.5.2. これまでの活動

「ちゃり再生法研究会」では通年に行っている自転車の修理のほか、地域の環境イベントに積極的に参加している。2009年までは市民から持ち込まれた自転車の修理や、修理した放置自転車の販売などの活動をNPO法人として行っている。

2008年に、佐賀大学に自転車修理団体「ちゃりさ」という放置自転車の削減を目的とした活動を行うサークルの立ち上げの手伝いに行き、交流が生まれた。今では互いの問題の解決策や、情報交換を行っている。

また、地域の環境イベントへの参加も積極的に行っている。最近では、2010年10月に行われた「長崎エコライフフェスタ」に参加し、子どもを対象にした自転車用ベルのペイントのブースを出展し、子どもたちと一緒に資源の有効活用の楽しさを学んだ。

その他にも、対馬の漂着ごみ清掃の「グローバルサミット」の実行委員を経験したり、長崎大学の環境サークルや県内の他大学の環境系団体との交流も積極的に行っている。

3. これからの環境サークルの展望

3.1. つじやすみん

今後は、つじやすみんのメンバー間の情報共有について力を入れたいと思っている。メンバーはそれぞれ各自の興味に沿って活動しており、同じつじやすみんメンバーの間でも把握できていない活動がある。その問題を解決するために、報告会を定期的に行い、さらなるつじやすみんの情報網の強化につなげたいと思う。

3.2. エコマジック

今後はこれからも長崎大学学園祭に毎年参加し、活動を維持していくことを考えている。長崎大学学園祭に来てくれたお客さんに、学生自身のごみの分別指導などを行うことで、地域社会にとってはごみ分別の意識向上につながる。一方、学生にとってはコミュニケーション力を養う場となっている。地域の人々に対しごみ分別の指導をすることで、このように本サークルは学生が講義では出会うことのできない実践の場を提供していると考えられる。

3.3. KUSU

今後はこれまで同様、被爆クスの苗を全国へ発送、植樹・育樹活動を続けていくとともに、これまで以上にメディアからKUSUのことを発信していき、多くの場所に苗を発送したり、植樹・育樹の大切さを訴えていきたいと考えている。また、市が行っている環境関連のイベントや、県外でのイベントにも積極的に参加していきたい。我々自身が平和や環境についても知識を深め、活動を通して一人でも多くの方が環境や平和への意識を高めてくれるよう努めたいと思う。

3.4. EMS 学生委員会

環境情報発信を充実させることや、より深く環境科学部のEMS運用にかかわっていくことである。EMS学生委員会の活動内容を学生や教職員の方に知ってもらう。

3.5. ちゃり再生法研究会

これまで不定期だった活動を定期的に行い、放置自転車の修理に努めたい。また、放置自転車の削減を目的とした呼びかけを積極的に行い、学生に大学内の現

状を知ってもらいたい。大学と協力し、修理した自転車の譲与に関する責任問題を解決して修理した自転車の譲渡ルートを確立していきたい。

また、もっと自転車の修理方法を知ってもらい、自分の自転車は自分で直せるように技術を教えたり、学生の意識の改善を出来るような活動を行っていきたいと考えている。

4. おわりに

本稿では、長崎大学環境科学部所属の学生達のサークル活動についてアンケート調査を実施してとりまとめた。

この報告からも分かるように、学生たちは、自らの周辺にあった小さなきっかけから活動を始め、多くの人に呼びかけ、地域で活動の輪を広げていることが分かった。また本学部の地域貢献の役割を果たしていることが示唆された。

また、アンケートの質問項目にはいれなかったが、講義室の座学では得られない貴重な経験や学びを得ていることも明らかになった。環境科学部では、環境教育マネジメントセンターやいくつかの講義などで地域にでていく試みがおこなわれているが、サークルでも十分に実施されていることがわかった。その他にもこうした実績を評価されて県の委員などを務めている学生が複数いて、社会貢献を担っていることもわかった。

環境科学部の環境サークルは学生の育成の場、社会貢献の場として機能していることが、本調査で明らかになった。今後、環境科学部学生の(講義以外の)学びの

場、地域貢献の場として、これらの環境サークルの実績を学部の公式な実績として記録し、公開していく必要があるだろう。

しかし、一方で環境サークルのおかれた現状も本調査の過程で明らかになった。例えば、調査対象のサークルの中には、活動を維持するための道具の保管場所を確保するために環境科学部に限らず学内の研究室を一つ一つあたり、棚を一段貸してもらっているというサークルも見受けられた。このように、活動拠点としての場の欠如を訴える声も多くあった。

他大学、他学部をみても、このように多様で活発な活動をおこなっているサークルは少ない。環境科学部において、サークルをベースに環境活動を中心とした活動を多くの学生がおこなっていることは、社会的にも環境科学部の魅力を高めることにつながっていると考える。環境科学部における環境サークルの意義を、あらためて見直す必要があるだろう。

参考 WEB サイト

長崎大学環境サークルエコマジック

(<http://ecomagic21.web.fc2.com/>)

長崎大学平和・環境ボランティア KUSU

(<http://kusu-love-peace.hp.infoseek.co.jp/>)